

ふりがな 氏名	さかもと たつき	都 道 府 県	群馬県	
	坂本 樹			
所属/肩書	ぐんま国際アカデミー中等部・高等部 / 教諭			
関心・活動のSDGs	 4 質の高い教育を みんなに	 17 パートナーシップで 目標を達成しよう		
私のESD活動	国際バカロレアプログラムに基づく、調査と行動を伴うプロジェクト型の学習			
活動の概要				
<p>私の勤務校では、国際バカロレアに基づくプロジェクト型の学習活動を通して、持続可能な社会の実現に貢献している。生徒一人ひとりの興味・関心を入り口として、特定のコミュニティにおけるニーズを調査し、それを満たすための取り組みを企画したり、それに参加したりすることで、特定の課題解決に貢献するというものである。例えば、芸術に関心のある生徒は、幼稚園や保育園に実際に赴き、お絵かきの時間に絵を描くための画材が不足しているというニーズを発見した。その結果、その生徒は絵画を趣味とする人々に呼びかけて余った画材を集め、幼稚園に寄付をするという取り組みを企画した。</p> <p>このような取り組みは、地球規模の課題について知識を得るだけではなく、実際に問題解決に努めることを通して課題を学んでいくという点で、先駆的な取り組みであると言える。従来、学校教育におけるESDは、地球規模の課題に関する一般的な知識を蓄えることに重点が置かれてしまっていた。しかし、本校での取り組みは生徒が問題に対して行動を起こすことで、具体的かつ実践的に問題解決型の教育を展開している。このように、生徒が特定の行動を通して得た経験は、持続可能な開発という問題に対して自分が何かしらの貢献をすることができるという自己肯定感と、問題解決のスキルを育むことにつながると考えられる。</p>				
私が考える教育の未来像				
<p>これからの教育は、学校と社会がより密接に関わることで、子どもの質の高い学びを保障できると私は考える。なぜならば、SDGsを代表とする地球規模の課題を解決する取り組みに見られるように、これからの学びは実践的な活動に基づいて「学び方を学ぶ」ことに重点が置かれていくからである。そしてそのためには、学校の中だけで、特定の教員が知識と経験を子どもたちに伝えるのではなく、子どもたちが積極的に学校の外に出ていき、具体的な活動に参画していくことが重要である。学校は、そうした社会とつながりやすい環境を子どもに提供することで、知識だけではなく「学び方」を学ぶ機会を与えていきたいと考える。</p>				
私の強み、活かせる経験やスキル				
<p>私は教育プログラムを設計するための目標・学習活動・評価の仕組みづくりに関する知識とスキルを通して、このコンファレンスに貢献することができる。これまで私は大学の学部・大学院で、学校で行われる授業づくりの方法について学び、研究してきた。具体的には、国際バカロレアという教育プログラムの目標の立て方や指導計画、評価の仕組みを研究してきたという経緯がある。その中で得た知見は、学校という環境だけではなく、インフォーマルな教育の分野でも十分に活かせるものだと思っている。したがって、私は他の参加者との協働の中で、授業づくりの計画や評価の部分で積極的に発言し、より実行性の高い取り組みを行っていきたいと考える。</p>				